

ポリシャインS取り扱い説明書

平床式水稻育苗法、育苗箱法

- ① 播種準備については従来の慣工法により、覆土厚は0.5cm位にします。
- ② ポリシャインSを被覆前に、モミが落ち着く程度にムラ無く十分灌水して下さい。
△但し、寒冷地は低温障害を防ぐ為、ハウス内室温30℃を目安にポリシャインSを被せて下さい。
(ハウスを早めに設置、密閉し置床の地温を予め上げるようにして下さい。)
△ポリシャインSは隙間が出来ないように必ずベタ掛けして下さい。トンネル被覆は保温力が低下しますので避けて下さい。
△寒冷地ではぬるま湯で灌水する事で床温を上げて下さい。
△露地育苗の場合は垂木や土等でシート端をしっかり押さえ、風が入らないようにして下さい。
(風が入ると床土が乾き、ポリシャインSの保水性能を低下させてしまいます。)
- ③ 暖地晴天時はハウス内室温が35℃～45℃と高温になりますが、ポリシャインSの被膜下は28℃～32℃を保っています。基本的に換気は不要です。
△但し、ハウス内室温が45℃を超えた場合は換気をして45℃以下にして下さい。
△外気温や夜間ハウス内室温が10℃以下になる場合、ポリシャインSの上にポリシート等の保温材を掛ける事で保温効果が高まります(夜間のみ)。
- ④ 苗が生長しポリシャインSに当たりが出たら、温暖な日を選びポリシャインSを外し緑化へ移行します。これ以上の被覆は徒長苗や立ち枯れなどを招きやすくなります。

被膜の目安日数

- ① ポリシャインSは断熱材ではなく、反射、遮熱材なので太陽光等のエネルギーを遮熱し苗床の温度を一定に保つ事が出来ます。
しかし、閉め切ったハウス内ではハウス内室温度が上昇するにつれ、ポリシャインSで反射した輻射熱の逃げ場が無くなり、ポリシャインSで熱伝導が発生し苗床に輻射熱が伝わります。ハウス内室温は45℃以下に管理して下さい。(高温障害、ムレ苗防止の為)
- ② 育苗時期は晴天と曇天の日で寒暖の差が激しく、出芽日数が変動します。

	出芽条件	出芽目安日数	注意事項△
温暖地	① 露地育苗地域	① 4～7日位	外気温が25℃ 又はハウス内室温 が45℃を超える場 合は換気して下さい。
	② ハウス内育苗地域(45℃以下でハウス内室温管理)	② 5～7日位	
寒冷地	ハウス内育苗地域(30℃～45℃でハウス内室温管理)	7～12日位	

*寒冷地はハウス北側にポリシャインSをカーテンとして使用する事で外部からの冷気の浸入を防ぐ事が出来ます。

品質保持推奨期間

△品質保持推奨期間はご購入後1年(1シーズン)とさせて頂いております。

お願い事項△

- △ポリシャインSは水分を逃しませんので、育苗期に散水の必要はありません。但し、ポリシャインS被覆前に灌水不足すると表面が乾く場合がありますので、その場合は散水して下さい。(寒冷地はぬるま湯で)
- △露地育苗はポリシャインSの上に雨水が溜まったままにしないで下さい。その箇所の出芽が遅れる可能性があります。(ブロー等送風機で水を除去して下さい。)
- △ポリシャインを剥がした時に覆土の持ち上がり、根上りが見受けられた場合は覆土を掛けてモミを落ち着かせて下さい。覆土の乾きが確認された場合はなるべく温かい水を散水して下さい。
- △ハウス内の温度計は育苗箱付近に設置して下さい。(ハウス内室温は天井、壁際等温度差があり正しい温度管理が出来ません。)
- △夜間の低温時にポリシャインSの上に掛けた保温材はハウス内室温が上昇する前に剥がして下さい。掛けたままですと素材により熱を吸収し、輻射熱をポリシャインSに熱伝導で伝えてしまい、苗床の温度が上昇し蒸れ苗を起こす危険性があります。
- △出芽を育苗機で行い予備緑化からご使用の場合は被覆後3日程度を目安とし、その後ポリシャインSを外し緑化硬化期に移行して下さい。(不完全葉位までが目安)
- *ポリシャインSを来シーズンも再使用される場合は泥等を落とし、陰干しして完全に乾かし湿気の無い暗所で保管して下さい。
- *水分が残った状態ですと傷口から蒸着膜に水蒸気が浸入し、アルミと化学反応しアルミが透明化します。
- *ポリシャインSは水稻育苗用に設計されておりますので、用途以外のご使用はしないで下さい。
- *ビニールハウスを連棟で設置する場合はビニールハウスとビニールハウスの間隔を1.5m以上開けて下さい。
ビニールハウス同士の間隔が狭いと、サイド換気をしていてもビニールハウス内との温度差が生じないため、上手く換気が出来ず、蒸れ苗等の原因となる事があります。